



●Answer
 帰依 龍照(きえ りゅうしょう)
 沖縄市・コザ山球陽寺住職

Q トートーメーは、なぜ赤色をしているのですか?
 (宮古島市・小学生・Sさん)

A Sさん、いいところ
 に気がつきましたね。

沖縄のお仏壇にあるトートーメー(位牌)は、確かに赤いですよね。漢字で「紅(べに)色」と書いて、「あかい」と読むのだそうですよ。色には、それぞれ意味があります。日本では、冠の色と地位を取り決めた『冠位十二階の制度』が、聖徳太子によって603年に作られました。これは高句麗や百済などの制度を参考にしたといわれ、役職によって身につけるものの色が決められていました(ちなみに琉球の位階制度は15世紀末に始まったとされています)。かつて、布を紫色や紅色に染めるには大変な手間がかかったため、一部の高貴な人しか着用が許されなかったのだそうです。このような理由から、紫や赤は格式の高い色とされています。私たち僧侶の世界でも、「僧班(そうはん)」といって、今も衣(ころも)や袈裟(けさ)が色分けされ、赤やエンジ系の色が最上位となっています。さて、沖縄のトートーメーの色ですが、なぜ紅色に

なったのでしょうか? たくさん理由があるようですが、そのひとつに、「紅色に塗ること、とても大切なものであることを表している」ということが挙げられます。トートーメーの着色には、古くからの天然樹脂塗料である漆が用いられています。この漆の伝統的な色は、黒と紅が主流です。昔の人の考えでは、黒色には「マジムンサキ(魔物を避ける)」という意味があったため、トートーメーのお札の裏やフレームや台などに使われました。紅色は、お札の表に使われています。

トートーメーは、一見すると紅色が中心のようですが、全体が紅いのではなく、中心のお札だけが紅く塗られています。そして、実はそこに書かれている文字の色が重要なのです。トートーメーの文字は金色で書かれています。金色は、沖繩ではクガニ(黄金)と呼ばれ、全ての色の王様であると言われていています。また、「往生成仏(おうじょうぶつ)」「亡くなられた方(がた)、あちらの世界(グソ(後生))」で幸せになつていふことを表している色だとも考えられています。

この金色をサポートする

役割があるとされる色の中で、最も格式が高いのが紅色なのだそうです。このことから、トートーメーのお札の表が紅色なのは、亡くなった方の幸せをサポートするためというの、大きな理由のひとつと言えるのかもしれないね。

ところで、「台所のヒヌカン(御火之神加那志(ヒヌカン)ガナシ(御願事))は、ウグワングトウ(御願事)だから、目を閉じてテイ(ウサー(合掌)しなさい。お仏壇のトートーメーは供養だから、目を開けてテイ(ウサー)しなさい」と、沖繩ではよく言われます。その

理由について、「ヒヌカンのウコール(香炉)は、心を静かにするという意味で白色だから目を閉じなさい。お仏壇のトートーメーは、グソ(後生)は、ごちだよーの意味で紅色だから、目を開けなさい」という話を耳にします。

沖縄の先人の素晴らしいジンブ(知恵)には、心から頭が下がる思いです。Sさん、トートーメーを気にかけてくださり、ありがとうございます。亡くなられたSさんの大切な方々も、目には見えませんが、紅色のトートーメーの向こうから、きっと、喜んでSさんを見守ってくたさることでしようね。

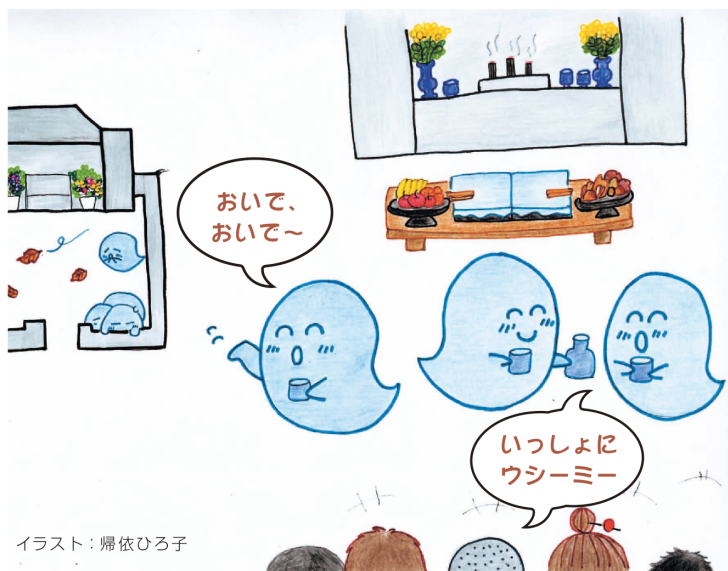


イラスト: 帰依ひろ子

今年は4月5日が清明でした。墓前に集まり、ご先祖さまと一緒にいい時間を過ごしましょうね~